

# 棚田生活

## Urban=Farm Lives

### □コンセプト

大山千枚田という棚田を対象として卒業設計をした。近年増えている田舎への移住願望がある人たちが、棚田のオーナー制度や各種体験制度で都会から来る人の出入りもあり賑わっている。しかし農業従事者の高齢化により棚田の管理問題が深刻になり大山千枚田を管理している棚田倶楽部。そしてこの土地にポテンシャルを感じた鴨川市が立ち上がり、協力し行うプロジェクトとして卒業設計をした。

### □プログラム

各種体験制度で来た人の宿泊場、田舎への移住願望がある人向けに田舎暮らしの体験ができる週末住居、そして実際に住む住居となるコレクティブハウス、実際に住むもしくは棚田を利用していくにあたり暮らしを豊かにするためのカフェ、神社、野外炊飯場、銭湯を設計する。

### □デザイン

住居は周りに数件建っている民家を参考にした。また景観を崩さぬよう、大きいスケールの物をつくることは避けた。

カフェや銭湯、野外炊飯場は大山千枚田を管理している、棚田クラブを参考にしデザインした。

最後に神社はこの土地に合うデザインを考え設計した。



竹内 勇貴  
建築設計計画研究室

### Step I. 各種体験制度で来た人や林間学校に来る人の宿泊場所をつくる



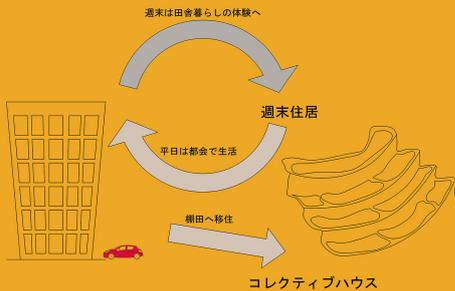
#### 各種体験制度で来た人 + 宿泊

棚田に滞在し農作業を行うことで、日帰りで農業体験では難しかった自然の一部になる。  
また、軽い田舎暮らしの体験もできる。宿泊なので田舎暮らしの体験としてはハードルが低く、誰でも気軽に棚田での生活の体験ができる。  
宿泊できるようにすることでオーナー制度や各種体験制度を行う人が増え、棚田を維持しやすくなることも期待出来る。

管理しやすいよう棚田倶楽部の近く計画する。また、この大山千枚田に元からある施設の一つである古民家レストランを食べてご飯を食べることを考えて、ごはんからスムーズに宿泊場所につけるよう計画する。



### Step II. 田舎への移住願望がある人向けのコレクティブハウス、週末住居をつくる



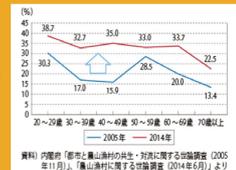
近年田舎への移住願望、定住願望が高まってきている。それは国土交通省の調査によるデータからもわかる。中でも20〜50代あたりが如実に増えている。しかし、移住したいと考える時期は20〜50代、60〜70代では全く違った。

若い世代がすぐに移住を断念できない理由として「本当に暮らしていけるか」「仕事はあるか」「不便でないか」などの不安要素。比較的に移住したい割合の高い高齢者にも移住に対する不安はあるようで、「一人暮らしに対する不安」「余生の短い中住居を建てるのももったいない」などの理由があるようである。

そこで田舎に移住したい人向けの施設を、ウィークエンドハウス、コレクティブハウスの二つに分けた。

ウィークエンドハウスは田舎に移り住みたい人が今すぐはできない、そんな人向けの田舎暮らしの体験をすることができる週末住居として設計する。実際に田舎に暮らして見ることによって将来的に移住した際の思っていた暮らしとのギャップを感じることや、また、より一層、移住した際の想像を膨らませる手助けにもなり得る。

コレクティブハウスは少しでも移り住みたい人が、すぐに移住でき、そこで生活ができるような住居を目指し設計する。田舎に移住したいが新しく住居を建てる余裕がなく断念してしまう人もいるようなのでそういった人の移住を促せると考える。また、近年、入居者で共同で農業をするなどの高齢者のシェアハウスが流行しつつあり、こういった人々が農業従事者になり得ると考える。この高齢者シェアハウスをするメリットは老人ホームや施設に入るよりも圧倒的に安く、また第二の人生をのびのびと過ごせることにあるようである。



### Step III. この場所での生活を豊かにするための施設をつくる

